



日時：令和5年3月4日（土）10:00～11:30
場所：光市立大和コミュニティセンター

市民プロデューサー
佐藤歩美さん

第4回目のワークショップとして「目指す学園像」の話し合いを行いました。1/31に行われた「子どもワークショップ」の報告のあと、今回は特に「やまと学園の学び舎の姿」の3つの領域について考えました。今回のワークショップでは26名の参加がありました。

大和中2年生の小林さんと山口さんから、子どもワークショップの報告。1年生の藤井さんから、どんなやまと学園だったらいいかについて発表がありました。



第4回ワークショップのプログラム

1. 報告1：検討の進捗状況
2. 報告2：1/31子どもワークショップ
3. 説明：施設整備基本計画について
4. ワーク：目指す学園像（2）
5. 発表、共有

グループワーク 施設整備に関して ふせんに意見を出す （一枚にひとつのこと）

- ①ふせんをたくさん
- ②ふせんをまとめる
- ③タイトルをつける

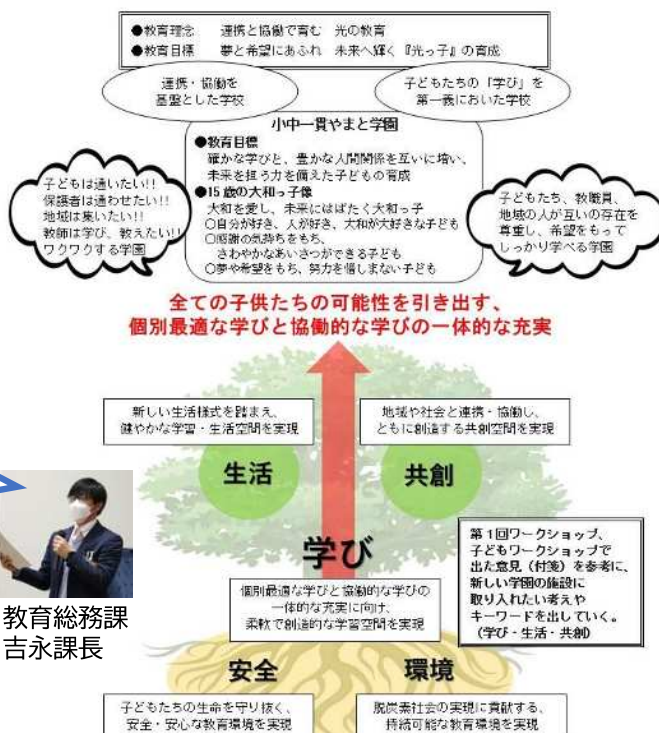


- 【学び】個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間を実現
- 【生活】新しい生活様式を踏まえ、健やかな学習・生活空間を実現
- 【共創】地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間を実現

【学び】【生活】【共創】の3領域について考えました。



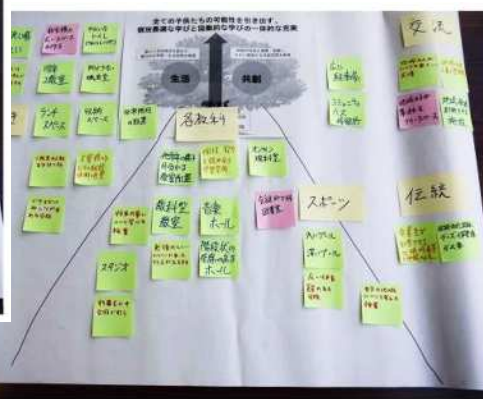
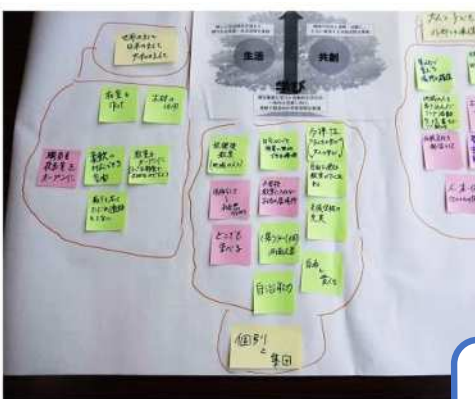
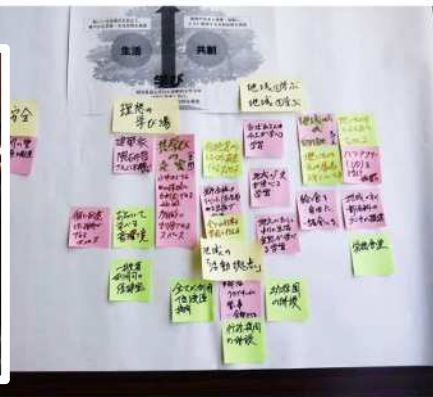
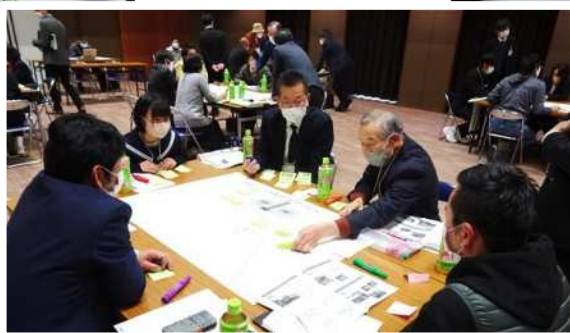
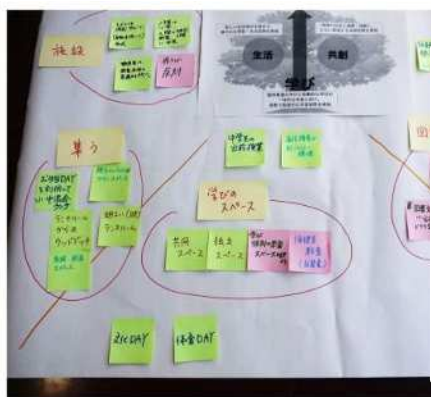
小中一貫やまと学園「目指す学園像」の構成



教育総務課
吉永課長



グループの話し合いの成果（一部）



目指す学園像（やまと学園の学び舎の姿）について、話し合った結果の報告を行いました



発表内容（一部）

班	発表
1	ソフト面では、市民が集える交流センター機能を一本化することで、学習支援の充実や部活動を増やせる。英語など、小中が一緒だからこその学びの充実を。ハード面では、オンライン学習がすぐにできる環境と、広い体育館・グラウンドがあると良い。目玉は「自給自足」で、太陽光発電や、給食の残りをたい肥にして地域の農業に活用してもらうなど。
2	9学年の子どもがいるので、お互いの様子がよくわかる教室配置が良い。より専門的な学びができるように。快適な空間など、子どもたちが通いたくなる学校が一番だと思う。地域や保護者の方などに学校に来てもらえるように、広い駐車場がある、コミュニティバスが停まる、文化的な活動やスポーツができる施設があるなど、寄ってもらえる学校になると良い。
3	個別と集団の学びが両輪となるような学びの環境が整うと良い。子どもたちの意見の本質を考えた時、自由と責任の関係を子どもたちの中で育むことが大切。世界・日本・やまと、それぞれの文化の良さを学べる施設があると良い。集える場所や高齢者のサロン、屋外ステージなど、大人と子どもの交流、学校と外部の連携ができる施設をイメージしてほしい。
4	地域と学べる環境づくりを重点的に。自由に出入りでき、地域の方とともに、4地域の歴史を学ぶスペースがあって、地域の活動拠点になったら良い。学びの充実では、自由に子どもたち同士で学び合えるスペースがあったら良い。専門的な見地から有名建築家に頼んではどうか。安全・安心を視野に、専門的な警備が整った建物・環境を。
5	図書室は、オープン化して地域の人も利用できるようにし、話し合いができる空間を併設する。学びのスペースは、共同スペースと独立スペースを分ける。トイレは洋式中心で自動手洗いとし、和式も設置する。小学生・中学生を階で分ける。外廊下は寒いからやめたほうが良い。職員室は教室全体が見渡せるように。小中混合でランチができる空間をつくる。

おわりのあいさつ

今回は中学生も参加してくれて、とてもよい話し合いになりました。今年度はこれで最終回となりましたが、やまと学園づくりのため、引き続きよろしくお願いいたします。 学校運営部会 河本部長（大和中学校校長）

お問い合わせ：光市教育委員会 教育総務課管理係（担当：石川）

TEL：0833-74-3601 FAX：0833-72-7202



今年度のワークショップは今回を以て終了しました。過去の記録は以下のホームページからご覧いただくことができます。



<https://tinyurl.com/2kr9z9hu>